

河瀬サイエンスデー

高校3年生の理系生徒を対象に、11月2日に「河瀬サイエンスデー」を開催しました。

物理選択生の取り組みの1つ目は、「日本は今後原子力発電を推進すべきである、是か非か」という論題についてのディベートです。中学校の総合的な学習の時間とも連携し、中学1年生全員が観戦しました。相手の立論に対して臨機応変に反論するのに苦慮しながらも、物理の学習で得た知識を存分に活用して、論理的に主張することができました。

2つ目は、ビー玉を用いたエンジンの作成です。理論的に学んだことの実践が上手くいかないことに困惑しながらも、試行錯誤の末に動き続けるエンジンを作ることができました。

生物選択生は、バイオ大学の高大連携担当黒田智氏を講師にお迎えし、自身のアルコールを分解する酵素の遺伝子診断を行いました。自身の遺伝子を自分で診断するということや今話題のPCRを用いるということから生徒達の関心は高く、5時間という長丁場でしたが、集中して行うことができました。

